



# ほうかつだより



## 今月のテーマ：地域で支える体制作り



### なぜ今、地域での支え合いが必要？

団塊の世代が75歳以上となる2025年を前に、高齢者が増加する一方、支え手となる生産年齢人口は減少傾向です。高齢者を支える人材も不足していくこととなります。これからは、専門職の支援だけでなく、隣近所の「**お互いの助け合い**」の輪を広げ、支えていく事が重要です。

介護保険サービスを基本としながらも、本人の状況に応じ、医療・介護・福祉・保健サービス、各市民団体等が行う事業などで地域資源をつないで生活を支えていく「**地域包括ケアシステム**」の構築が必要になっています。

### 地域包括ケアシステムの実現に向けた、 地域包括支援センターの現在の取り組み!!

介護予防・日常生活支援総合事業

介護予防事業の様子



介護予防と自立支援の視点で、自立した生活が送れるよう、「自助」・「互助」を基本とした仕組み作り・普及・啓発などを行っています。

地域ケア会議の推進

地域ケア会議の様子



市や地域包括支援センターが会議を主催し、医療・介護関係者や地域住民が集まり、地域課題の抽出や解決に向けて話し合っています。

認知症施策の推進

認知症サポーター養成講座の様子



認知症があっても暮らし続けられるよう、認知症の方やその家族を支えるための仕組み作りに取り組んでいます。

在宅医療・介護連携の推進

研修会の様子



高齢者等のよりよい在宅生活のために、医療・介護関係者の連携に取り組んでいます。

生活支援サービスの体制整備

地域住民主体で開催する支え合い推進会議に参加しています。



11月号は、地域課題検討ケア会議の実績、個別支援地域ケア会議について掲載します。